

【要約版】鳥取県経済成長戦略

本 編

平成22年4月

鳥取県

1. 2020年の世界経済・社会構造

増加する世界人口 ~ 世界人口は77億人に。開発途上国の人口増顕著

新たな世界経済の牽引役として中国、インド台頭 ~ 金融危機後の世界は中国、インド台頭

東アジア経済圏での相互依存重視の日本 ~ 東アジア経済圏の中国、インド等との相互依存関係強化

環境・エネルギーに関する社会変革進展 ~ 太陽光等の新エネルギー利用・ビジネスが生まれ、社会経済環境に大きな影響

【増加する世界人口】

2020年の世界人口は77億人。特に開発途上国の人口増加顕著。〔人口:65億人(2005年) 77億人(2020年)〕

【新たな世界経済の牽引役としての中国、インドの台頭】

2008年9月以降の世界的金融危機の影響は、翌年の中旬から徐々に落ち着きを取り戻すなか、中国とインドが世界経済の牽引役として存在感増
〔2010年成長率見通し(IMF):中国7.5、インド5.6、アメリカ0.0、日本0.5〕

【東アジア経済圏での相互依存を重視する日本】

世界の貿易総額は増加するとともに、各国・地域間での相互依存関係は増加。

日本は東アジアの経済圏に含まれ、経済圏の中核である中国やインド等の国々と連携を踏まえると、共に様々な形で相互依存関係は一層強

【環境・エネルギーに関する社会変革の進展】

温暖化など地球環境問題の高まりから、環境・エネルギーに対する世界的意識が向上

太陽光をはじめとした新エネルギーの利用や様々なビジネスが生まれ、社会経済環境にも大きな影響

2. 2020年の日本経済・社会構造

人口減少の進行 ~ 1億2,274万人に減少。少子高齢化、地方の過疎化が顕著

低成長の継続 ~ 世界金融危機脱出後も0~2%程度の低成長

生産拠点のアジアシフトと環境・エネルギー分野等へのシフト ~ 高齢化等に対応した健康・保健等のサービス産業の進展と、環境・エネルギー分野等の新産業の拡大と既存産業の業態転換が進展

ライフスタイルの変化とコミュニティビジネスによる課題解決

【人口減少の進行】

2010年頃から人口は減少傾向。少子高齢化、地方都市の過疎化、都心部への人口流入顕著。

(人口: 1億2,777万人(2005年) 1億2,274万人(2020年))

【低成長の継続】

世界金融危機による景気低迷により、経済成長(実質GDP)の一時期マイナスも2009年末頃から改善。しかし、以後は0~2%程度の間を行き来 (GDP成長率: 6.2%(2008年) 0.5%(2010年))

【生産拠点のアジアシフトの進展と比較優位にある日本のものづくり産業、健康・保健等産業の拡大】

電気機器、化学製品等、日本の技術や生産力等が世界の中で比較優位にある産業は今後も拡大想定。一方、生産拠点のアジア等へのシフトが進行

高齢化をはじめとした人口構成や消費構成の変化の中で、健康・保健等の産業が拡大、新たな雇用の受け皿
建設、鉄鋼、公務等は財政支出の抑制・効率化により横ばいから下降想定

他の先進国等と比べて製造業に占めるハイテク産業割合は低かったが、太陽光発電、次世代自動車などの環境・エネルギー分野、LEDをはじめとした次世代デバイス分野等へ新たな産業の拡大と既存産業の業態転換等が進行

【ライフスタイル・生活価値意識の変化とコミュニティビジネスによる生活の課題解決の進展】

国民生活の多様化、生活時間の24時間化、食やレジャー等を通じて、快適な時間消費を楽しむライフスタイル、生活価値意識向上。そうした動きに伴い、特に都市機能が集中した街なかでの快適空間・機能の導入進行

バイオ技術の利活用の推進、健康関連産業の振興等が進み、国民の心身ともに健康で快適な生活実現。一方、中山間地域などでの様々な課題解決に、行政等と連携した地域パワーによるコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスが進展

3. 鳥取県経済の将来像

【とっとり産業の特性や強みを活かした産業の振興】 ～ 関西圏や東アジア経済圏等への供給が進展

とっとりを特徴づける海や山、大地の恵を活かした産業(農・水産業、食品加工業等)のレベルアップ

大学の技術等を活用した事業化の推進、電子部品・デバイス産業の次世代産業対応

健康・福祉等全国有数の産業基盤の高度化等を通じて魅力ある産業が拡大

【とっとり産業と社会を強める次世代産業の振興】 ～ 日本発東アジア経済圏へのフロントランナーに

太陽光発電、次世代自動車などの環境・エネルギー分野、LEDをはじめとした次世代デバイス分野等へ新たな産業の拡大と既存産業の業態転換等が進み、未来に向けたリノベートが進展

【県民ライフスタイルの充実、向上そして安定の実現】

県民が快適な時間消費を楽しむライフスタイル、生活価値意識が高まり、鳥取市や米子市などの中心市街地では、県民等が快適空間の中でサービス等を享受できるようになる。健康・福祉などの県民生活を支援する関連産業が振興し、心身ともに健康で快適な県民生活を実現する。

中山間地域などでの様々な課題を解決するために、地域スポーツとの連携やコミュニティの有するパワーやストックにより生活環境にマッチした快適生活を実現する。

【安定かつ持続可能な経済成長】

経済成長戦略の確実な実行により、新規雇用の創出など安定した経済成長を遂げる。

〔潜在成長率(2007 - 2020) : 約0.7%
約0.3% (2010 ~ 2020年)の上積み効果〕

〔経済成長戦略完全実施〕

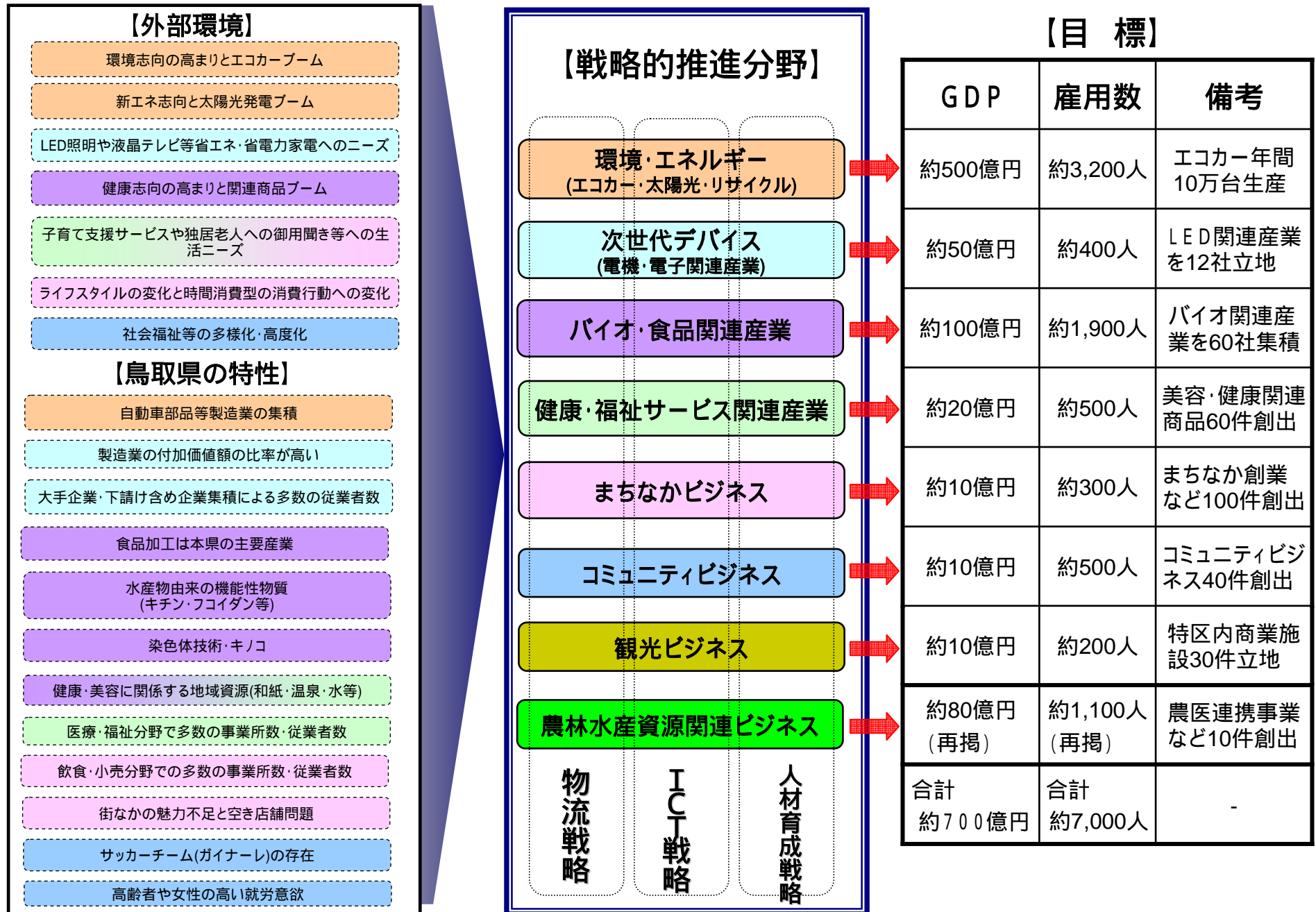
【人口、労働力の減少と高齢者、女性等の活躍】

鳥取県の人口減少は進み、高齢化率はさらに上昇する。また、労働力の減少が緩やかに進むが、家計支持、生き甲斐づくり等のため、積極的に高齢者や女性等が様々な産業でいきいきと働く環境になる。

〔人口: 607千人(2005年)〕

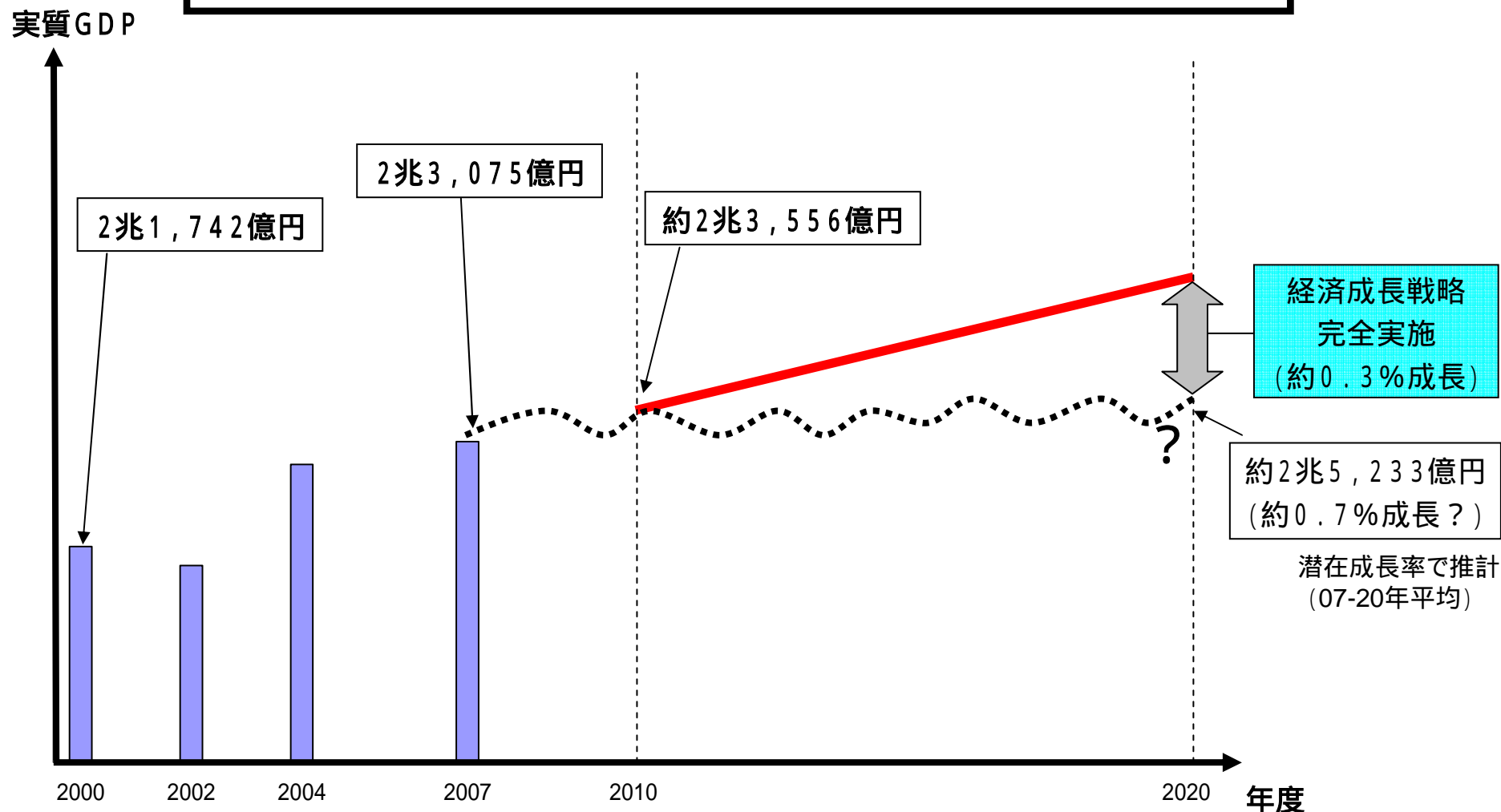
561千人(2020年)〕

4. 戦略分野特定方針について



5. 実質GDP成長経路のイメージ

鳥取県経済成長戦略によるGDP押し上げ効果
約700億円〔新規雇用 約7,000人〕



注) 潜在成長率は、社団法人日本経済研究センター「都道府県別中期経済予測」を活用